

菅平生き物通信

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所

〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-294 電話：0268-74-2002 FAX：0268-74-2016

2026 年（令和 8 年）9 月 13 日（日）発行
第 113 号 ©2026 菅平高原実験所
ウェブサイト：www.msc.tsukuba.ac.jp/



皆さんもご存知のように上田地域は江戸時代末期から昭和時代にかけて、蚕糸業が盛んな「蚕都」でした。上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館サントミュージゼの「サント」は、「蚕都」から来ているそうです。なぜ蚕糸業が盛んだったかというところ、上田盆地、千曲川の扇状地や河岸段丘などの地形、気候などが蚕の餌となる桑の栽培に適し、また降水量の少ない上田地域は蚕の飼育にも適していたからだそうです。私は東京都杉並区出身ですが、小学校3年くらいで蚕の飼育授業があり、ご近所の桑の木があるお家から葉を分けて頂いていました。さて、この「桑」、生物学的にはクワ科クワ属で、おそらく私たちが上田周辺で目にするのは、マゲワとヤマゲワ（図1）です。マゲワは蚕の歴史とともに中国起源で栽培化され、日本



図1：ヤマゲワ。雌雄異株。まわりの株も見ましたが、実はすでにありませんでした（2026年8月21日撮影）

に渡ってきた種です。ヤマゲワは九州から北海道まで広く分布している自生種です。両種で雑種も作るので、雑種を目にすることもあり、種の識別が難しいこともあります。赤紫の実が甘酢っぱく食用になり、「マルベリー」としてジャムにもなります。ちなみにドリームズ・カム・トゥルーの90年代のヒット曲「晴れたらいいね」の歌詞の一節「こくわの実」また採ってねの「こくわ」はサルナシ（マタタビ科マタタビ属・キウイフルーツの仲間）で、クワとは違います。閑話休題、蚕糸業が盛んだった上田地域では、雑種らしき個体を含めてマゲワ、ヤマゲワ（以下、クワ）を目にする機会が多いと思います。山地側だけでなく市街地のちよつとした藪っぱいところにもひょこつと生えているのは、鳥が食べ



図2：クワの木の隣にあった藪。青々と葉があった頃にはクワの実を食べて、このテントのような藪の中で休憩していたのかもしれません（津田推測）

蚕都上田のクワとクマの生活史

筑波大学生命環境系 准教授 津田 吉寛

くべて、糞の種から生育した個体かなとも思います。また昔の桑畑だったと思われるところにも、クワを見ることが多いです。最近数年間、私は学生たちとツキノワグマ（以下、クマ）にGPS首輪をつけて行動パターンをみる研究もしています。これら行動パターンから利用頻度の高い場所をみつけて、現地観察などもしています。そうすると、思いのほか、クワに遭遇することが多いです。私たちに美味しいクワの実、きつとクマにとっても美味しいのでしょうか（図2）。
昨今深刻化するヒトとクマの軋轢問題、遭遇事故などの軽減のためには、人間生活圏のクマの誘引物を減らすことが大切です。民家の軒先できれいに赤く染まった柿は秋の趣を感じさせる光景ですが、そのような柿もクマにとっては魅力的です。栗も同様です。GPSデータをみて現場に行ってみたら、カラマツ林にぽつんとある栗の木だったこともありました。
これから庭木など含めて様々な植物、果樹が実をつける時期です。ちよつと寂しい気持ちもありますが、クマ対策という意味では、ある程度、結実の光景を楽しめたら、実を全部とるのも大事故かもしれません。一方、少子高齢化、人口減少も進み、これらの作業を誰がやるのか、は課題です。上田の蚕糸業の歴史が地域のクマの生活と関係しているかもしれないなど、ヒトと野生動物の関係について色々考えることも多い今日この頃です。



イベント情報

秋の自然観察会「秋の草原と森の観察、そして滝へ」

季節の草花や樹林を観察しながら、通常非公開の「大明神の滝」を目指します。菅平ナチュラリストの会（ボランティア）がご案内します。

- 日時 10月10日（土）9時30分～12時
- 定員 30名 ●参加費 50円（保険代）
- 会場 菅平高原実験所
- 服装 持ち物 長袖、長ズボン、歩きやすい靴、帽子、雨具、虫よけ、飲み物、防寒着
- 申し込み 9月25日（金）9時～10月1日（木）に、①氏名、②住所、③電話番号、④メールアドレスを明記しメールで左記へ。先着順。数名のグループでお申し込みの方は、全員の氏名と住所を記載してください。
- 参加の可否について数日以内にご返信します。
- 事前に悪天候が予想される場合は中止となります（中止の場合は前日連絡）。

問

筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所
☎0268・74・2002（平日9～17時）
✉ikimono_srs@un.tsukuba.ac.jp



季節の便り



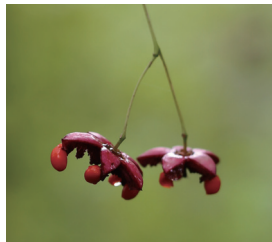
サワフタギ



カンボク



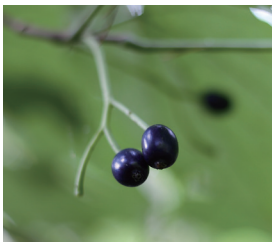
オオツリバナ



ツリバナ



ミズキ



ウリノキ



アオハダ



カラフトイバラ

9月、菅平高原実験所構内ではさまざまな果実が見られます。多くは鳥などの動物に食べられますが、冬まで残っているものもあります。

身近に存在する草原

筑波大学山岳科学学位プログラム
前期2年 漆崎 壮太

皆さんは草原と聞くと、どんな風景を思い浮かべますか。菅平や霧ヶ峰といった高原やアフリカのサバンナをイメージする方が多いのではないのでしょうか。実は、水田の畔も草原の一つです。畔は毎年草刈りなどの管理が行われるため、木が生えず草原の状態が保たれています。草原は元来、人の生活には欠かせないものでした。例えば、元々菅平は大きな牧場や採草地であり、このような草原は肥料や燃料・山菜などを人間に提供してきました。また、水田の畔やため池の土手のような場所も、人々にとって身近な草原として利用されてきたのです。

一方、このような長い歴史をもつ水田環境は、耕作放棄や農業の近代化によって減少していま



図3：畔で咲くカワラナデシコ

す。伝統的な農業を続ける大変さを考えると、生き物の生育地を守ることと農業経営を両立できる取り組みが必要だと感じています。また、耕作放棄地の周辺には野生動物が住み着くとも言われており、害獣対策には水田の維持が重要になります。

長野県における稲作の歴史は飛鳥時代まで遡り、歴史性のある地域と言えます。私の修士研究では、水田の管理の長さが植物の多様性と関係しているのかを調べています。調査の結果、長い間維持されてきた水田の畔には、多様な草原性の在来種が生育することが分かっていました。このような水田では、夏から秋にかけてはカワラナデシコをはじめとした、秋の七草が畔を彩ります。多様な植物が生育する畔では植物を利用する昆虫も多く生息しています。これからは水田の畔を見かけた際に、そこが多くの生き物や人々の生活を支える豊かな草原でもあることをぜひ思い出してください。

私の研究は、多くの農家の方々のご協力があったて成り立っています。調査を快く許可してくださった農家の皆さま、そして長年にわたり豊かな水田環境を守り続けてくださっている農業従事者の皆さまに、この場を借りて心より感謝申し上げます。



図4：様々な花が咲く水田の畔



9月5日および6日、「第1回まちなか自然博物館」を開催しました。写真は制作途中の展示物です。詳細は次号にてご報告します。

本通信の印刷・配布は
東郷堂様にご協力いただいております



次号は12月発行予定です

